

# 要 請 書

平成25年11月7日

厚木基地騒音対策協議会

## 厚木基地騒音対策協議会

### 会員

神奈川県知事	黒岩 祐治 (会長)
横浜市長	林 文子
相模原市長	加山 俊夫
藤沢市長	鈴木 恒夫
茅ヶ崎市長	服部 信明
大和市長	大木 哲
海老名市長	内野 優
座間市長	遠藤 三紀夫
綾瀬市長	笠間 城治郎
町田市長	石阪 丈一
神奈川県議会議長	古沢 時衛
神奈川県議会議員	藤代 ゆうや
神奈川県議会議員	平本 さとし
神奈川県議会議員	塩坂 源一郎
神奈川県議会議員	谷口 かずふみ
神奈川県議会議員	笠間 茂治
横浜市会議長	佐藤 祐文
相模原市議会議長	須田 毅
藤沢市議会議長	高橋 八一
茅ヶ崎市議会議長	広瀬 忠夫
大和市議会議長	大谷 仁
海老名市議会議長	倉橋 正美
座間市議会議長	沖本 浩二
綾瀬市議会議長	出口 けい子
町田市議会議長	田中 修一

顧問

衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
衆議院議員  
参議院議員  
参議院議員  
参議院議員  
参議院議員  
参議院議員  
参議院議員

星野剛士  
甘利明  
あかま二郎  
河野太郎  
義家弘介  
後藤祐一  
阿部知子  
小泉昭男  
中西健治  
金子洋一  
島村大文  
松沢成文  
佐々木さやか  
牧山ひろえ

平成 25 年 11 月 7 日

殿

厚木基地騒音対策協議会

会長（神奈川県知事）

黒 岩 祐 治

厚木基地における米空母艦載機の夜間連続離着陸訓練による航空機  
騒音の解消等に関する要請

厚木基地周辺では、200万人を超える住民が、航空機騒音により、長年にわたり堪え難い苦痛を強いられており、神奈川県及び基地周辺市は、かねてより、このような航空機騒音問題の抜本的解決を求めてまいりました。

こうした中、平成18年5月には在日米軍再編協議において、騒音被害の主な原因である空母艦載機を2014（平成26）年までに移駐させることや恒常的訓練施設を2009（平成21）年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することを目標とすることが日米両国政府間で合意され、ロードマップ<sup>(注1)</sup>が公表されました。

しかしながら、空母艦載機の移駐時期については、本年1月に防衛省から施設整備の全体工程を見直した結果、遅延するとの説明があり、10月3日には、日米両国政府間で2017（平成29）年頃までになることが確認されたところです。

また、恒常的訓練施設については、ロードマップでは移駐の前提とはされていないものの、いまだに設置場所が特定されていません。

さらに、移駐が実現するまでの間、基地周辺の住民は、特にNLP<sup>(注2)</sup>等の空母艦載機着陸訓練前後の激しい騒音や、墜落、部品落下、不時着などの事故への不安にさらされ続けなくてはなりません。

昨年5月には、突然の通告により、昼夜にわたる空母艦載機の着陸訓練が3日間強行されるなど、周辺住民はさらなる負担や耐え難い苦痛を強いられました。

三次にわたる騒音訴訟でも、基地周辺住民が受忍限度を超える騒音被害を受けているとの司法判断がなされていることは、その負担の深刻さを示しています。

については、厚木基地騒音対策協議会では、一日も早い騒音問題の抜本的解決を図るため、国の責任において、特に次のことを早急を実現するよう要請いたします。

また、文書にてご回答くださいますよう併せてお願いいたします。

注1：ロードマップ… 在日米軍再編協議において平成18年5月1日に合意された内容を記載した文書。正式には「再編実施のための日米のロードマップ」。

注2：NLP…Night Landing Practice の略

## 1 早期かつ着実に空母艦載機の移駐等を実施すること

- (1) 貴職におかれては、過大な基地負担を負っている地元住民の強い思いを受け止め、1日も早い移駐の実現のため、施設整備や訓練空域の調整などを着実にを行うとともに、移駐にかかる諸課題の解決に向けた協議等に全力を尽くされるよう求めます。
- (2) 移駐の具体的なスケジュールや現在の進捗状況、移駐後の厚木基地周辺における騒音状況の予測について、「厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会」等を通じ、関係自治体に対し、継続的かつきめ細やかな情報提供を行うよう要請します。

## 2 恒常的訓練施設を確保すること

2009（平成21）年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することを目標とするとされている恒常的訓練施設については、貴職の責任において、早期に選定し、移駐実現までに必要な施設整備等を終えるよう、また、その見通しについて、速やかに情報を提供するよう要請します。

## 3 移駐実現までの間も、騒音問題の解決に積極的に取り組むこと

### (1) NLPの硫黄島での全面实施及びNLP直前の集中的訓練の硫黄島の活用等

貴職におかれては、人口密集地域にある厚木基地周辺住民の深刻な騒音被害の状況を深く認識され、NLPの硫黄島での全面实施及びNLP直前の集中的訓練における硫黄島の活用などについて、積極的に米側と調整するよう、強く要請します。

その実現に向けて、

ア 本協議会が提案している、いわゆる「直結方式」<sup>(注3)</sup>や硫黄島での予備日の設定など、必要な措置についての多角的な検討を行うこと

イ 支援態勢、施設の一層の拡充、整備を推進することを求めます。

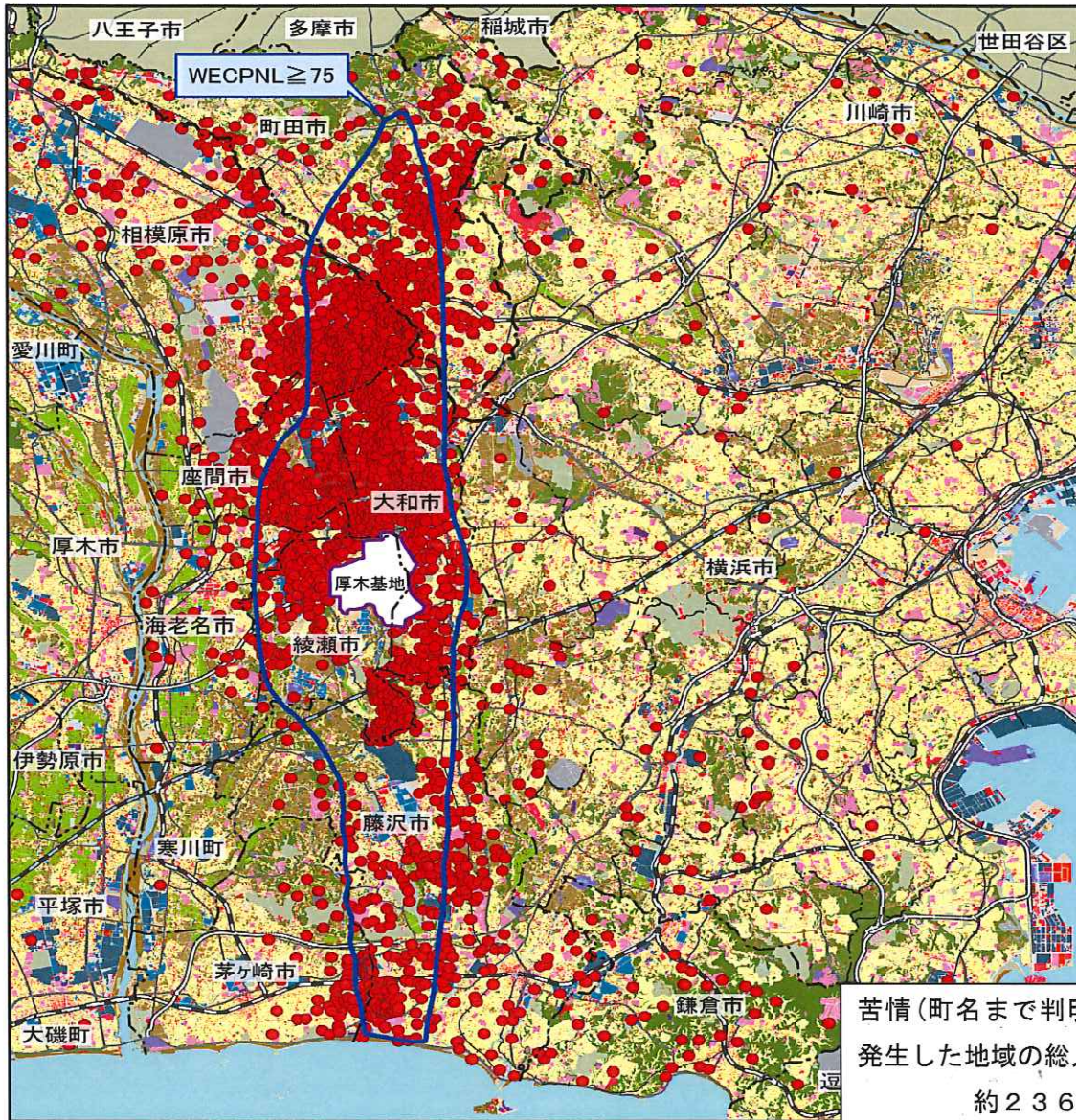
### (2) 激しい騒音の発生が予想される飛行に関する事前情報提供

住民の苦痛を少しでも軽減・緩和するために、NLP等の空母艦載機着陸訓練に限らず、激しい騒音の発生が予想される飛行については、貴職の責任において、適時、的確な情報提供を行うとともに、住民への十分な説明を行うよう要請します。

注3：直結方式・・・空母艦載機の帰還と着艦を空母と硫黄島の間で直接行うとともに、NLPと通常訓練をすべて硫黄島で行う方式

## 騒音苦情の発生地点で見る周辺住民への影響

- 平成 23 年度に、県及び厚木基地周辺 12 市に寄せられた苦情 4, 112 件の内、住所地(町名まで)が判明した苦情 3, 012 件について、その発生場所を示した。(地図上の赤丸 1 つは、町名まで判明した苦情 1 件を表す。)
- 青い線は、国が平成 15、16 年度に実施した騒音調査に基づく WECPNL75 のコンターライン。

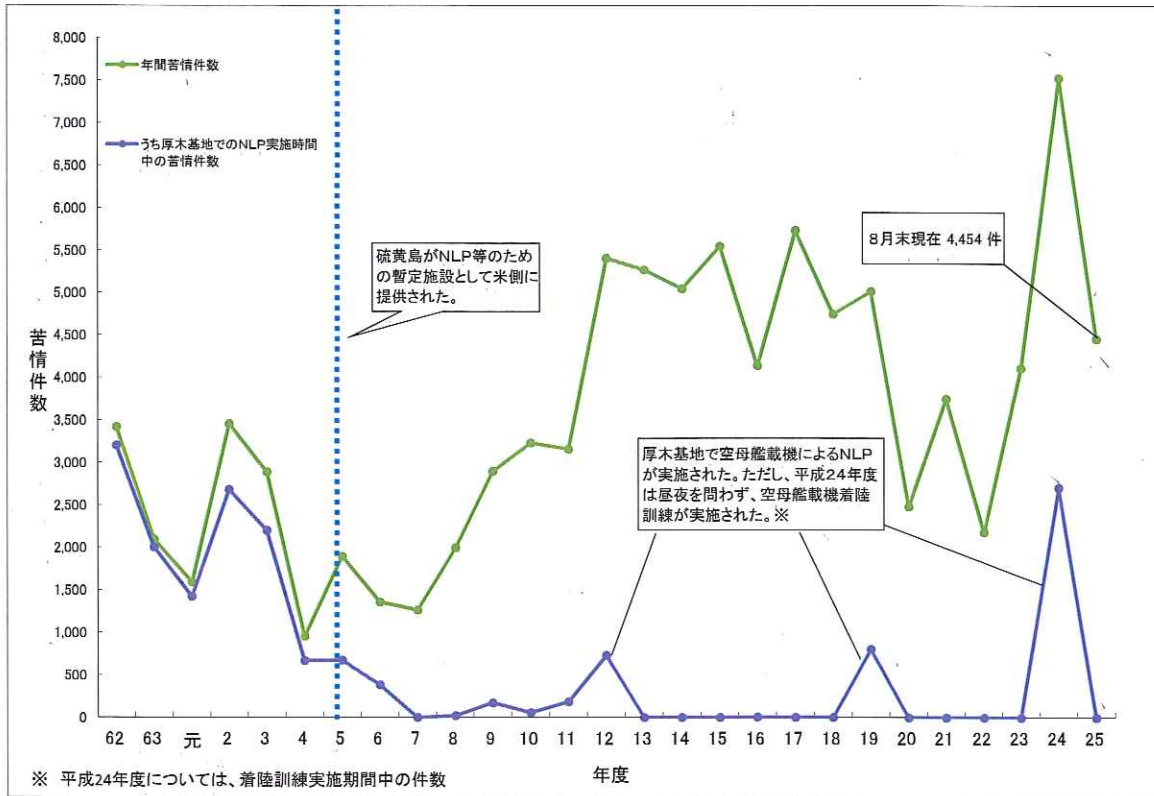


苦情(町名まで判明したもの)が発生した地域の総人口  
約 236 万人  
(平成 23 年 10 月 1 日現在)※

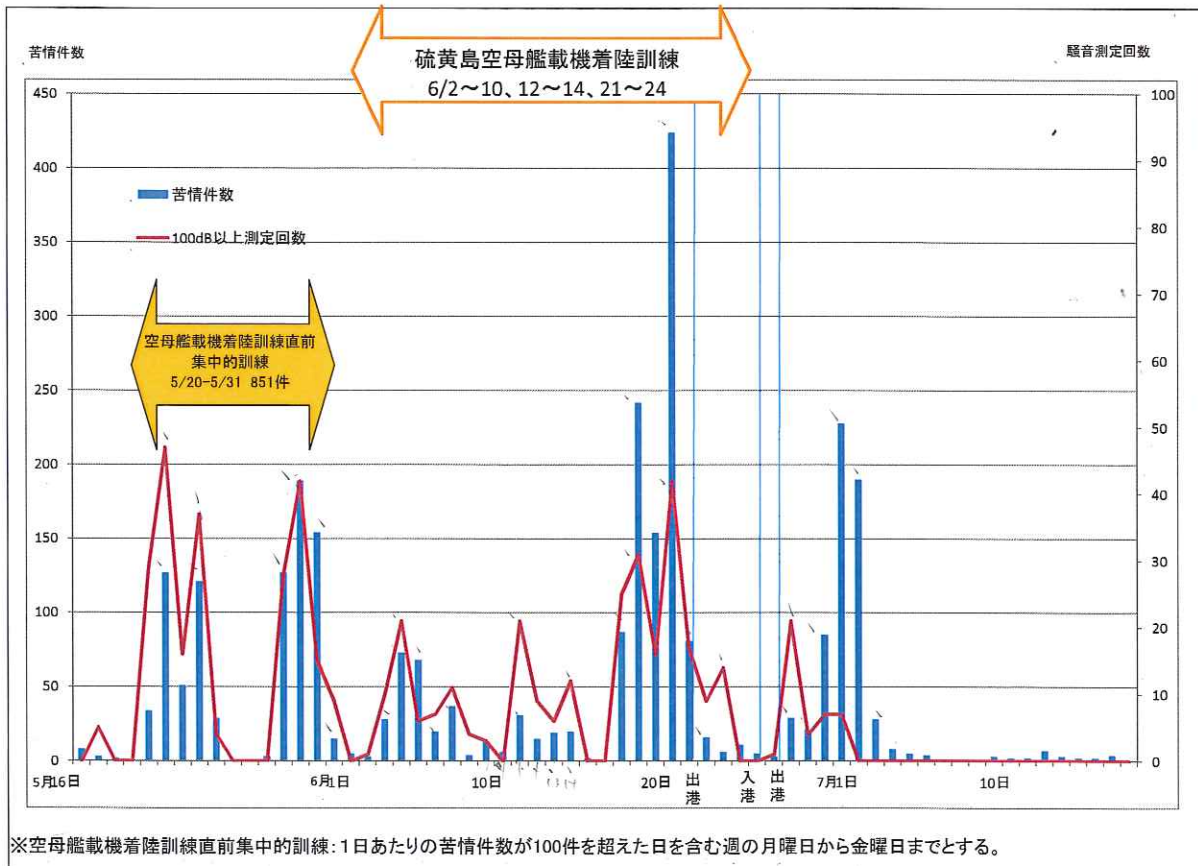
- ・ この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 20 万分の 1 地勢図を複製したものである。(承認番号 平 24 関複、第 40 号)
  - ・ 「平成 17 年度神奈川県都市計画基礎調査」及び「平成 19 年度東京都土地利用現況」を用いて作成
- ※ 苦情発生地域の総人口について、横浜市、川崎市については、平成 23 年 9 月末日現在の統計

苦情を受た自治体	大和	綾瀬	相模原	藤沢	茅ヶ崎	海老名	座間	横浜	町田	川崎	鎌倉	平塚	県	合計
苦情件数	662	318	705	290	53	47	303	62	303	15	30	4	220	3,012

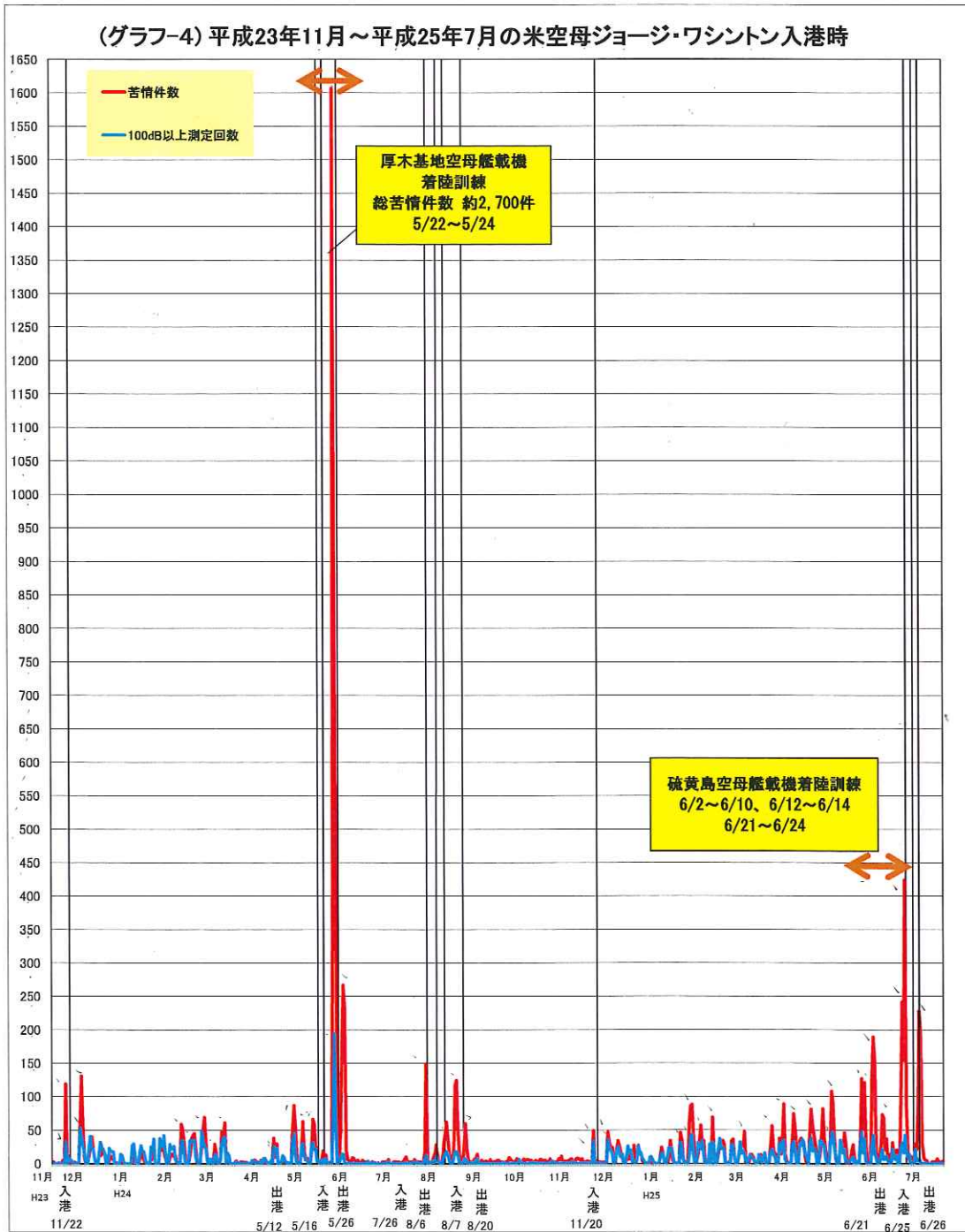
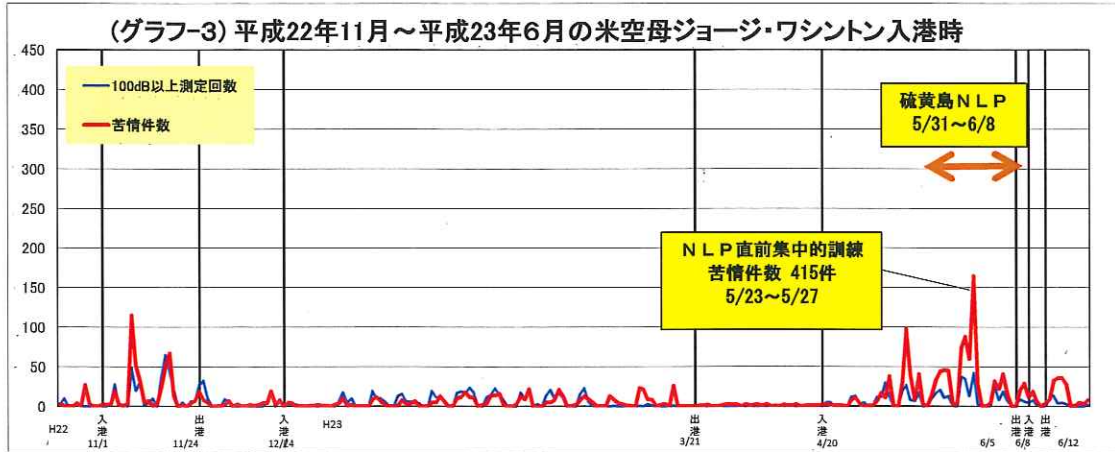
(グラフー1) 年度別苦情件数及びNLP時間中の苦情件数



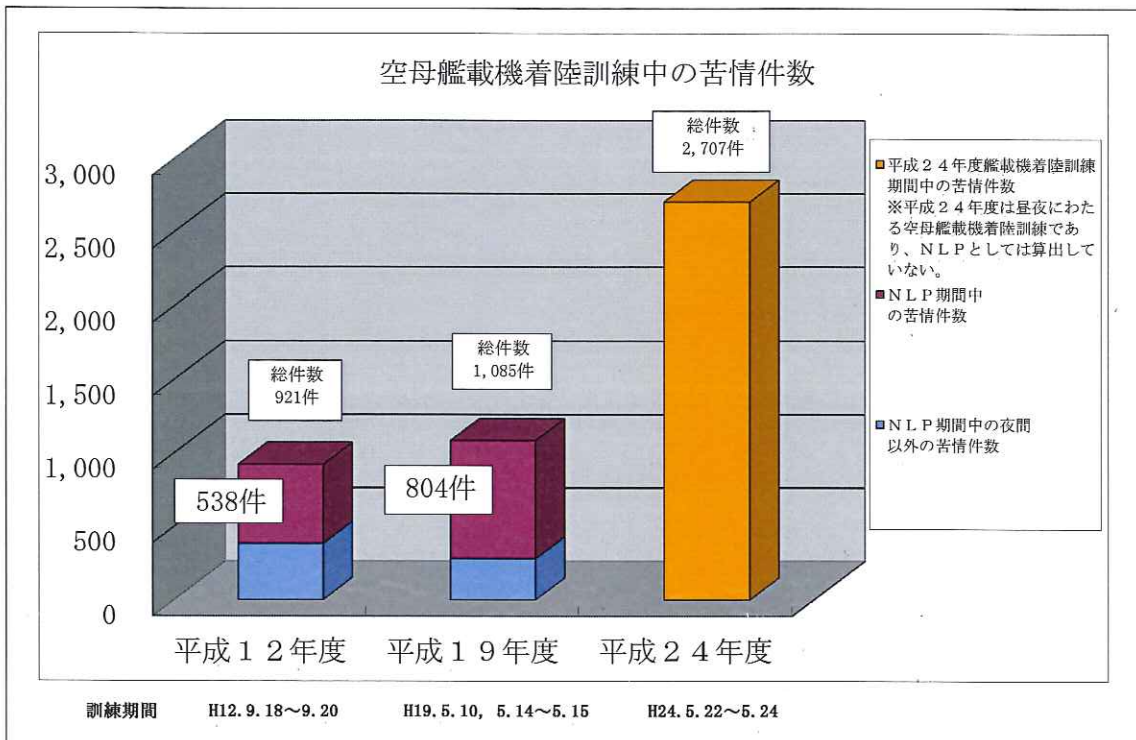
(グラフー2) 平成25年5月～平成25年7月 空母艦載機着陸訓練時の苦情件数



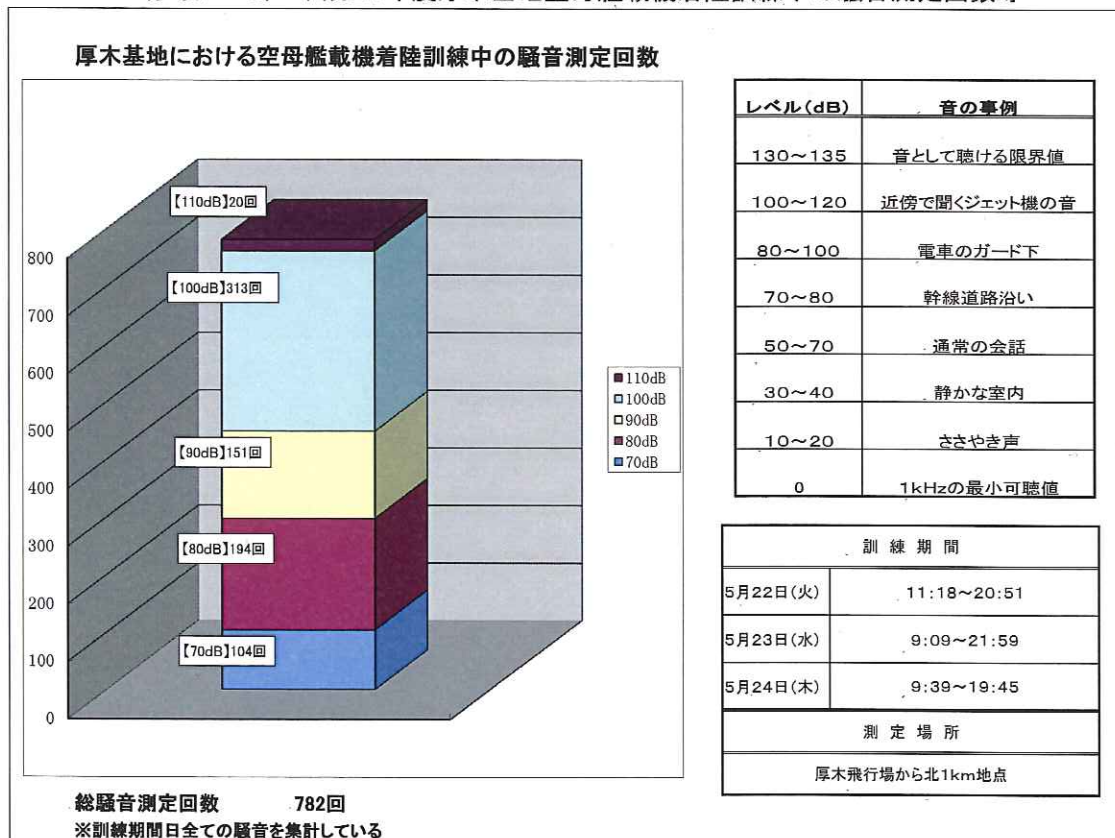




(グラフー5) 厚木基地における空母艦載機着陸訓練中の苦情件数



(グラフー6) 平成24年度厚木基地空母艦載機着陸訓練中の騒音測定回数等



## 厚木基地問題に関する近年の状況

平成 14 年 2 月	日米両政府間で、できる限り多くのNLPを硫黄島において実施することが了解された。
14 年 3 月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>
14 年 5 月	デモンストレーションフライトが廃止された。
14 年 9 月	E A 6 B プラウラーからエンジンのパネルが落下。
14 年 10 月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>
15 年 1 月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>
15 年 1～2 月	瀬戸内海最大の無人島にNLP訓練施設を含む防衛施設の誘致の動きがあったが、白紙撤回となった。
15 年 3 月	S H 6 0 ヘリから部品落下。
15 年 5 月	キャンプ座間所属のU H 6 0 ヘリが上智大学グラウンドに不時着。
15 年 10 月	厚木基地でNLPを実施するとの通告があったが、初めて硫黄島での日程を延長してNLPを実施し、厚木基地では実施されなかった。
15 年 11～12 月	F A 1 8 F スーパーホーネット戦闘攻撃機13機が、F 1 4 トムキャットに代えて、配備された。
16 年 2 月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>
16 年 7 月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>
	第五空母航空団所属のヘリから銃弾200発が落下した。
16 年 8 月	横田基地所属のヘリが、みなとみらい地区ヘリポート付近に不時着。
16 年 10 月	F A 1 8 E スーパーホーネット戦闘攻撃機13機がF A 1 8 C ホーネットに代えて、追加配備された。
16 年 11 月	F A 1 8 C ホーネットからミサイルの羽根の一部が落下。
16 年 12 月	F A 1 8 C ホーネットから部品の一部が脱落し、藤沢市内の工場の屋根に穴を開けた。
17 年 1 月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>
17 年 2 月	キャンプ座間所属のヘリが伊勢原市の成城学園グラウンドに不時着。
17 年 4 月	飛行を終えて厚木基地に戻った第五空母航空団所属の艦載機2機からハシゴの一部等の部品が紛失しているのがわかった。
17 年 5 月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>
	厚木基地所属のヘリが部品を紛失。
17 年 7 月	藤沢市片瀬海岸に厚木基地所属のヘリが不時着した。
17 年 10 月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>
	在日米軍再編協議において、空母艦載機の移駐案が合意され、「日米同盟：未来のための変革と再編」（中間報告）が公表された。
18 年 1 月	約20年ぶりに住宅防音工事区域の見直しが行われた。
18 年 5 月	在日米軍再編協議において、2014（平成26）年までの空母艦載機の移駐が合意され、「再編実施のための日米のロードマップ」（最終報告）が公表された。
	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>

18年 5月	第五空母航空団所属のC2プロペラ機が航空機の部品の一部を落下。 在日米軍再編に関する基本方針が閣議決定された。
18年 7月	厚木第三次騒音訴訟の控訴審において、WECPNL75以上の騒音は受忍限度を超え違法との判決が出された。 (上告断念により確定)
18年 10月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b> 第五空母航空団所属のヘリから懐中電灯が落下した。
19年 2月	FA18が部品を紛失。
19年 5月	<b>厚木基地でNLPが実施された。</b>
19年 6月	横田基地所属のUH1Nヘリが横浜市金沢区内の公園に不時着。
19年 12月	厚木基地第四次騒音訴訟が提起された。
20年 6月	横田基地所属のUH1Nヘリが相模川河川敷に不時着。
21年 2月	綾瀬市上空でFA18Eスーパーホーネットからゴム製シールが落下した。
22年 1月	FA18Eスーパーホーネットから金属製部品が落下し、綾瀬市内の民家の一部を破損した。
22年 3月	FA18Cホーネットから金属製部品が落下した。
23年 2月	寒川町上空で第五空母航空団所属のヘリから金属製ブイが落下した。 平塚市内の相模川河川敷に厚木基地所属のヘリが緊急着陸した。
24年 2月	EA6Bプラウラーから機体外部パネルが落下した。
24年 3月	EA6Bプラウラーの後継機として、EA18Gグラウラーが厚木基地に配備された。
24年 5月	<b>厚木基地で、昼夜を問わず空母艦載機による着陸訓練が実施された。</b>
25年 1月	防衛大臣政務官が来県し、地元自治体に対し、空母艦載機の移駐の遅延等について説明を行った。
25年 2月	引き続き、2014(平成26)年までに移駐することを強く求め、併せて国や米側が、自治体へ情報提供等を行うための枠組みを早期に構築するよう、防衛大臣及び外務大臣へ要請を行った。
25年 5月	「厚木飛行場からの空母艦載機の移駐等に関する協議会」が開催され、国から情報提供があった。
25年 10月	日米両国政府間において、空母艦載機の移駐が、2017(平成29)年頃までに完了することが確認された。

## 住民から寄せられた騒音被害に関する意見

平成24～25年に県及び各市へ寄せられた意見の中から一部について掲載します。

### 移駐の遅延に関する意見

- 移駐が延期になってしまったことに激しく落胆している。今も航空機はひどい轟音で飛んでいる。自治体は国にしっかりと抗議してほしい。
- 急に移駐が延期になったと言われ、国を信じていたのに騙された気分だ。1日でも早く移駐させてほしい。国は市民の苦しみを全然理解していない。長い期間、国は何をやっていたのか。しっかり国民の為に働いて欲しい。

### 深夜早朝の飛行等に関する意見

- このところ連日、深夜にも及ぶ飛行に悩まされている。戦争をしているかのように飛行機が飛んでいる。
- 深夜0時以降の飛行は非常識すぎる。夜間に飛ばすだけでも酷いが、事前の連絡すらないのに激しい憤りを覚える。
- 日曜日の朝や、深夜に爆音に悩まされる市民の気持ちを考えたことはあるか。もっと市民の苦しみを知ってほしい。
- 深夜、早朝の飛行に、一般人のみならず、子供や病人、老人が苦しんでいる。何とかやめてほしい。
- 1分ごとに何度もジェット機が頭上を飛ぶ。この電話をしている間にも数十回ジェット機が1分置きに飛んでいる。なぜこのように頻繁に飛ぶのか。

### 情報提供に関する意見

- 飛行情報を米軍側に公開してもらえないのであれば、飛行させることができないようにペナルティを科すべきだ。日米両政府に要請するだけでは、実態は全く変わらない。
- 飛行コースが変わってきているのではないか。自治体としてもっと積極的に航空機騒音に関する情報発信を行ってほしい。
- 米軍は深夜の飛行や、低空飛行禁止について把握しているはずなのに、全く規定を遵守しない。また、地元自治体にも全く情報提供がない。日本政府は米軍に馬鹿にされているのではないかと感じてしまう。米軍に対し、強く抗議してほしい。
- 米軍や国が訓練の情報や飛行ルートを公開しないのならば、地元自治体が独自で調査してほしい。

- 毎日低空飛行をする航空機の爆音に晒<sup>さら</sup>されている市民の身になってほしい。飛行機の騒音に本当に困っている。ある程度飛び方を考えてほしい。
- 基地へ苦情の電話をかけても常に留守番電話になり話を聞いてもらえない。
- 政府が米軍に何も言えないでいる状況は情けない。市民は騒音被害を受けているのに、情報がもらえないのはおかしい。もっと強く要望してほしい。

## その他

### I 健康被害に関する意見

- 毎日飛行機が煩わしくてストレスになる。爆音であらゆる日常生活の音が聞こえず、テレビの音を非常に上げているので難聴になる。地響きで家が揺れ、体の具合が悪くなる。安心して暮らせない。生存権が脅かされている。
- 夜間、日中の飛行に寝不足、疲労感、頭痛に悩まされ、精神的にも参っている。対策を願う。
- 自宅の真上を低空飛行しているので、衝撃が加わり尋常ではない。耳が痛い。
- 精神科に通っていて、睡眠薬を飲んでも眠れない。幼児に悪影響を与える。人権を侵害していると感じる。

### II 生活被害に関する意見

- 至近距離で大きな声を出しても会話にならない。乳児の昼寝中でも激しく飛行機が飛び回り大迷惑だ。
- 仕事の電話も中断せざるを得ず、騒音が止むまで相手を待たせてしまっている。仕事にならない。
- 学校では児童が航空機騒音に怯えてしまい、授業にならない。
- 暑いので、窓を開けたいが、開けると騒音のせいで生活に支障がでる。

### III 国の住宅防音工事に関する意見

- 米軍機の騒音が非常に激しいため、防音工事をしていても効果がない。
- 住宅防音工事の希望者が全員工事をするができるよう、住宅防音工事助成区域を拡大してほしい。
- 飛行コースが変わったのか。住宅防音工事助成区域外であるにも関わらず騒音が酷い。